

「東北電力企業グループ連携による酒田共同火力発電所への木質バイオマス燃料の導入」の概要について

1. 計画の概要

- 当社グループ企業の「グリーンリサイクル(株)」(右、参考参照)は、当社の配電線保守作業等に伴い発生する伐採木を、同社工場(岩手県北上市)で木質バイオマス燃料に加工します。
- この木質バイオマス燃料を、当社グループ企業の「酒田共同火力発電(株)」(右、参考参照)の発電所で石炭と混合・粉砕して粉状にし、同2号機(出力:35万kW)で使用します。
- 同2号機で消費する木質バイオマス燃料は、当面年間約3千トン。将来的に拡大する方向で検討していきます。

配電線への接近や倒木による停電事故の未然防止等のために伐採した樹木。



2. 特徴

- 伐採木の処理と燃料への加工、消費までの一連の伐採木有効活用システムを、当社企業グループ内に構築します。
- 当社管内で発生した伐採木を、当社管内の発電所の燃料として使用する「地産地消」の取り組みとなります。
- 導入により以下の効果が得られます。
- 企業グループ間の連携により、当社配電線保守作業等に伴い発生する伐採木を安定的に処理できます。
- 酒田共同火力発電所における石炭消費量を年間約2千トン削減できます(同2号機で消費する石炭の1日分に相当)。これに伴い、酒田共同火力発電所におけるCO₂排出量を年間約5千トン・CO₂削減できます(一般家庭約900世帯の年間CO₂排出量に相当)。
以上のことから、循環型社会の形成および低炭素社会の実現に貢献するものです。

3. 今後の予定

- 今後、酒田共同火力発電所における木質バイオマス燃料の受入設備の建設など、導入に向けた諸準備を進め、平成23年5月頃に試験的な導入を行い、その後本格運用する予定です。

< 参 考 >

1. 酒田共同火力発電株式会社の概要

- 昭和48年4月、火力発電による卸電気事業を目的として設立。
- 出力:35万kW×2基。
- 東北電力(株)100%出資
- 取締役社長:鈴木信次氏
- 住所:山形県酒田市宮海字南浜1番19



2. グリーンリサイクル株式会社の概要

- 平成13年5月、リサイクル事業を通じて、東北電力企業グループのゼロ・エミッション達成に貢献すること、循環型社会形成に寄与すること、を目的として設立。
- 主な事業:配電線保守に伴い発生する伐採木の収集・処理
- 営業品目:・一般・産業廃棄物木くず(自然木)の収集運搬および処理
・処理後のチップ販売
・炭石けん類の販売
- (株)ユアテック100%出資
- 取締役社長:川崎正一氏
- 本社:宮城県黒川郡富谷町成田9-3-5ユアテック人材開発センター内

3. 木質バイオマス燃料について

- 間伐・伐採木などを加工した燃料。植物起源であるため、「カーボンニュートラル」(生育時の光合成によるCO₂吸収量と、燃焼時のCO₂排出量が相殺)な燃料です。

